



朝鮮人ノ氏名ニ關スル件 制令案  
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十四年十一月七日

内閣總理大臣阿部信行



日本国史館蔵 昭和十四年十一月七日

拓印 = 五 =

十一七

昭和十四年十一月七日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

近

法制局長官



外務大臣

近

陸軍大臣

西

文部大臣

近

逓信大臣

近

厚生大臣

近

内務大臣

近

海軍大臣

近

農林大臣

西

鐵道大臣

近

大藏大臣

近

司法大臣

近

商工大臣

近

拓務大臣

近

別紙朝鮮總督上奏

朝鮮人ノ氏名ニ關

スル件制定制令案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ上奏案

スル件制定制令案

ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

指令案

朝鮮人ノ氏名ニ關スル件

上奏ノ通裁可ヲ經タリ

十月七日  
上

管行第六八八號

朝鮮人ノ氏名ニ關スル件

別紙制令案朝鮮人ノ氏名ニ關スル件進達ス

昭和十四年十月十八日

拓務大臣 金光庸



内閣總理大臣 阿部 信行 殿

昭和十四年十月十九日

主任 管理局橋爪書記官

管第522號  
14.9.-5  
務省

管行第688号  
14.9.5.  
拓務省管理局

法祕第三二號

昭和十四年八月三十一日

朝鮮總督 南 次 郎

内閣總理大臣 阿 部 信 行 殿

朝鮮人ノ氏名ニ關スル件

別紙制令案朝鮮人ノ氏名ニ關スル件公布ノ必要有之候ニ付御裁可相成候様可然御取計相成度候也



上奏書用紙

(日本標準規格 B.4)

別紙制令案御裁可相成度

右謹テ奏ス

昭和十四年八月三十一日

朝鮮總督 南

次



朝鮮總督府

朝鮮總督府

制令第 號

第一條 御歴代御諱又ハ御名ハ之ヲ氏又ハ名ニ用フルコトヲ得ズ

自己ノ姓以外ノ姓ハ氏トシテ之ヲ用フルコトヲ得ズ但シ一家創立ノ

場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 氏名ハ之ヲ變更スルコトヲ得ズ但シ正當ノ事由アル場合ニ於

テ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

理由

朝鮮人ノ氏名設定ニ付制限ヲ設ケ且濫ニ之ヲ變更スルコトヲ禁ズル爲  
本令ヲ制定スルノ必要アルニ依ル

説明

朝鮮民革命ノ改正ニ依リ朝鮮人タル戸主又ハ其ノ法定代理人ハ氏ヲ定ムルコトヲ要スル所御歴代御諱又ハ御名ヲ熟字ノ僭氏トシテ用フルコトヲ禁ズルノ必要アルコトハ謂フヲ俟タズ而シテ名ヲ定メ又ハ氏名ヲ變更スル場合ニ於テモ前示ノ制限ヲ設クルノ必要アルハ同様ナリ是第一條第一項ヲ設ケシ所以ナリ

氏ノ設定ニ付他人ノ姓ヲ用フルガ如キハ各家ヲ區別スベキ標示トシテ適切ナラズ是同條第二項ヲ必要トスル所以ナリ

氏名ハ相合シテ個人ヲ表彰スルモノナルヲ以テ濫ニ之ガ變更ヲ許スベキニ非ズ尤モ正當ノ事由存スル場合ニハ之ガ變更ヲ認メザルベカラズ是第二條第一項ヲ設ケシ所以ニシテ右變更手續ハ其ノ性質上朝鮮總督府令ニ依ルヲ以テ相當トスルガ故ニ同條第二項ヲ設ケタリ



氏名ニ關スル太政官布告

○御諱御名ノ文字使用方ノ件（六年三月太政官布告第百十八號）  
御歴代御諱竝御名ノ文字自今人民一般相名乘候儀不及憚事  
但熟字ノ儘相用候儀ハ不相成候事

○氏名改稱出願方ノ件（五年八月太政官布告第百三十五號）

（九年布告第五號ヲ以テ改正）

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名竝屋號共改稱不相成候事  
但同苗同名等無餘儀差支有之者ハ管轄廳へ改名可願出願

○同上ノ件（五年八月太政官布告第百三十六號）

人民一般改稱ノ儀二百三十五號ノ通御布告相成候ニ付テハ華族及奏任以上ハ可伺出其餘ハ各管轄廳ニ於テ事實取調ノ上開届可申候

○國名並舊官名使用方ノ件 (三年十一月)  
太政官布告  
 自今舊官人元諸大夫侍並元中大夫等位階總テ被廢候事  
 一國名並ニ舊官名ヲ以テ通稱ニ相用候儀被停候事

○明治三年九月十九日太政官布告第六百八號  
 自今平民苗字被差許候事

○明治八年二月十三日太政官布告第二十二號  
 平民苗字被差許候旨明治三年九月布告候處自今必苗字相唱可申、尤祖先  
 以來苗字不分明ノ向ハ新タニ苗字ヲ設ケ候様可致、此旨布告候事

○明治五年五月七日太政官布告第四百四十九號  
 從來通稱名乘兩様相用來候處自今一名タルベキコト

陸甲三一

昭和十四年八月三十一日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

近衛樞密院議長

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙陸軍大臣請議大正十一年勅令第百三號陸軍軍法會

議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務關スル件中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通